V 戦士

徳島県バレーボール協会中学校専門部便り夏季５４号

昭和から平成・令和へ

高橋　利明

大会準備は，どれだけ大変なものか。やった人はその大変さを痛感すると思います。

平成５年度県中選手権大会終了後，いつものようにファミリーレストラン「ゲンダイ」（現在，ファミリーレストラン「ガスト　徳島大学前店」となっています）に行きました。大会の結果処理（新聞社への結果報告するためのまとめでもあります）及び中学校専門部会だったりするためです。しかし，そのときの１０名以上の先生方の様子がいつもとは違っていました。「高橋，事務局をやれ！」というのです。驚いた私は即答をしませんでした。しかしそのときの勤務先の藤本忠昭校長（恩師で県協会副会長でもありました）が，「勉強になるから，やってみろ。」という助言もあり，引き受けることにしました。

その４　～事務局と大会準備～

当時の中学校専門部会と現在とでは似ても似つかぬ状態でした。徳島県バレーボール協会からすれば，県副会長（藤本忠昭先生から井上肇先生に交代），清水俊宏専門部長，奥村健策先生（次期専門部長），そして事務局の私で全てまかなっていました。むしろ，私一人で切り盛りしていたのが事実です。とりわけ，さわやか杯大会（後の JOC ジュニアオリンピック大会）のメンバーを選考する練習及び会議は，私の都合で日程が決まっていました。というのも「夏休みに私が旅行に行くのでいません。都合のよい日を決めてください。」と言っても「高橋がいる日ににしよう。」というと「高橋がいなかったら何をしていいか分からない。」と言う意見にまとまるのでした。その他のことも私の意見が尊重され，事実上私に全権委任という状態でした。自分としては，ありがたいことだと思い自ら積極的に大会が行えるようにしていきました。

まず，大会要項ですが，大会要項は夏休みの間に全て作成しました。「大会要項など，日程と場所が年によって異なるだけで，あとは毎年同じでよいから楽なもんだ。」と思う方もいるかも知れません。しかし，そんなことはしませんでした。過去の大会要項を参考にしながらも自分で最初から作成することにこだわりました。そうすることによって，どんな大会であるのか，どんなことに注意をしなければならないのかということを自分自身にたたき込もうとしたかったからです。そのため，よく誤字・脱字もありました。手書きでするならば，そんなことは絶対にないという自信がありましたが，パソコンで打つと勝手に変換してもらえるので（当時，勝手に変換できるようにな

ったばかりで，後で確認しないという自分の愚かさもありますが・・・）できたと勝手に思ったら，修正の嵐でした。特に，当時の岩野匡美理事長が東四国国体の事務局のため徳島県庁での勤務でした。理事長から「大会要項は，郵送する前に必ず私のところへ持ってきなさい。」と言われていたため，年休をとって授業の空いているときに県庁に行って見てもらいました。理事長に懇切丁寧にチェックしていただくだけでなく，文書の書き方を教えて頂きました。そのため，その後の文書作成について何の苦にもならなかったことを思えば今もありがたく，感謝しています。また理事長からは，「大会初日の２週間前に組み合わせ抽選会を行う。組み合わせ抽選会の２週間前に大会要項を発送する。」ということも教えていただきました。しかし，私はそれに加えて，大会要項を発送する前に県バレーボール協会の常務理事会で常務理事以上の方に見てもらうことにしました。現在は，それが常識化していますが，当時はそんなことをしたカテゴリーの責任者はいませんでした。

次に大会申込書を受け取り，組み合わせ表を作成することです。締め切り日が終わっているにもかかわらず，申込書が届かないチームは，毎回１／３以上ありました。そのため，確認の電話を授業の空きに行うのですが，相手先も授業があるためコンタクトできるのは抽選日当日ということもザラでした。携帯電話やスマホがある現在では考えられないような手間でした。また，日本バレーボール協会によるチーム登録及び個人登録の番号（以下，ＭＲＳという）を記入するようにしましたが，ＭＲＳから直接登録状況をプリントアウトして提出してもらうことにより，先生方の手間を省けるようにしました。

３番目は，大会に必要なラインテープ，ラインジャッジのフラッグなどの準備です。私が事務局をする前は，会場責任者を決めて，会場責任者が用意するようなことが多かったです。しかし，それでは無責任かつ試合で必要な用具がないと当日困るので（実際に困ったことが多かったです。特に，ラインテープがないことが当日判明し，スポーツ店に急遽頼んで持ってきてもらったりすることはよくありました）紙の手提げを買ってきてこの会場には何が必要なのかチェックしながら準備をしました。特に，県中選手権大会前は県バレーボール協会登録用紙のチェックをする必要もあったので，組み合わせ抽選の前日は，”丑三つ時”を越えることは常でした。３～４年も経つとその紙の手提げもぼろぼろになったため，一番安いボールカバンを購入し，それを大会グッズ入れカバンとして現在も使用しています。それと同時に，試合球を県バレー協会・野房競技部長の自宅に行って受け取らなければなりません。それも，メーカーからボールが届いていないといけないので，組み合わせ抽選会の１～２週間前くらいに連絡する必要がありました。それを忘れると，組み合わせ抽選会後に会場責任者になった先生のところに自分自身で持っていかなければならないという大変な仕事になっていたからです。

４番目は，弁当の業者に弁当を発注することです。組み合わせ表を見ながら，大会役員（県協会に所属している方）がどの会場に何人いるかを予想していかなければなりません。絶対に足りないということはあってはならず，予想する人数に＋２名分を発注していました。そのため，どこの会場においても弁当が余るため，会場で最後まで残った先生や生徒に配っていました。現在は，そのようなやり方を止めたのが武井和夫先生が専門部長のときでした。大きな英断であるし，今考えると，大きな無駄遣いであり手間でした。

５番目は，組み合わせ表を見て審判を依頼することです。現在は，審判部の方で審判派遣をしてもらい助かっていますが，当時はそれも事務局の仕事です。仕事というより様々な事情をカットするためでした。（また，そのことについては次号で）大会３日間で，試合が終わり，次週までに電話連絡をしていました。ほとんどの方に断られていました。大会初日の審判を依頼すると，「試合があるからできない」。試合で負けた大会２日目なら大丈夫だろうと連絡すると，「用事があるか

ら。」？？しかし大会最終日は，連絡しなくても来る。（どうしてくるかはお察しください）本当に「（阿波弁で）へらこいやっちゃ！」と常に内心で思っていました。しかし，少ないながらも了解してくる先生や県協会の方はよくこう言ってくださいました。「高橋のために行く」と。私も審判は大会初日は自分の試合２試合，主審５試合，休憩なし。大会２日目は自分の試合２～３試合，主審２試合，休憩０～１試合。最終日は自分の試合０～３試合，主審０～３試合，休憩なし。特に皆が嫌がる試合（接戦になる試合や決勝）は自分から進んで主審をしていました。「こんな面白い試合を一番近いところで見られるって嬉しい！」と言って・・・。

６番目は，試合終了後です。まずは会場の片付けと掃除。私の恩師である井上肇先生は，とにかく掃除をよくしていました。県中総体終了後（徳島中央高校が会場のとき），溝に落ちているゴミを素手で取っていました。私はそれを見て,「そのゴミはバレーとは関係ないのではないですか？･･･手も汚れるし・・・」と。すると，「使う前より使った後の方が綺麗くなっていたら，また会場として貸してくれるでないか。・・・手は，洗ったら元に戻る。」私は，それ以来生徒にその言葉をよく使うようにしました。それが終わって，各会場の結果を集めて新聞社に報告する仕事が待っています。集計が終わると，徳島新聞社，朝日新聞社，毎日新聞社，読売新聞社に結果を持っていきました。
１１月３日は地元の祭りですが，教員になって祭りに参加するのは自分の子どもが山車で太鼓を叩くまでありませんでした。

大会最終日は，戦評を書かなければなりません。是非自分がしたいと思っても，先輩の先生方が書き，なかなか自分には回っていませんでしたが，事務局ということもあり，気合いを入れて書くも翌日の新聞記事には，ほとんど自分の文章が採用されていない。「悔しい！」の一言でした。しかし，全ての先生方が同じ経験しているのを聞くとホッとする気持ちもありました。（笑）

大会終了後においては，結果報告及び会計報告をしなければなりません。特に，大会に必要な経費は自腹で立て替えておかなければなりません。その結果，損することはあっても得することはありませんでした。

しかし，事務局が忙しいからといって負けるわけにはいけません。学校の仕事がおろそかになってはいけません。「常に優勝をめざしてやる。（常に）ただでは負けないぞ。“バレーばっかりして，学校の仕事ができていない”とは，絶対言われたくない。そんな思いで，毎日取り組んでいました。

その５　　～優秀選手～

さわやか杯大会（後のＪＯＣジュニアオリンピック大会）が行われる前は，男女１２名を選出し，県中新人大会決勝・閉会式終了後において，優秀選手による紅白戦を行っていました。この紅白戦に出場できることは，３年生にとって活躍が認められた選手として，輝かしいものでした。

さわやか杯大会が始まると，さわやか杯大会に選出された１２名とそうではなかったけれどもプレーが優秀である３名を選出しました。選出基準は，現在もそうですが大会でのチームの結果から選出します。しかし，男子約３０チーム，女子約９０チームから選出する優秀選手の人数が同じなのはおかしいと県バレー協会常務理事会で主張しました。しかしながら，全く聞き入れてもらえませんでした。松田弘先生（当時，城東高校教諭）が，表彰委員会委員長になってからも，そのことを主張しました。また，他競技の状況を参考資料として話をしました。

①バレーボール競技よりチーム数が少ないのに優秀選手の人数が多い
②年によって優秀選手の人数が異なる競技もある
③さわやか杯大会に選出されたのは，あくまでもチーム作りも踏まえたものであるから，決して１年間活躍したとはいえない。それなのに優秀選手として選出されると，１年間活躍した選手を表彰できないのはおかしいのではないか
④１年間活躍し，さわやか杯大会にも選出されたが，事情によりさわやか杯大会は辞退した選手を優秀選手から除外するのはおかしい
と主張しました。

①②について
表彰委員会で男子２０名，女子２５名が認められるようになりました。さらに，県バレー協会常務理事会で，男子２０名程度，女子２５名程度とし，年によって増減が可能になりました。

③④について
当時の会長は，このことについて全く受け付けてくれませんでした。現在，この議題を語る方はいませんが，柔軟な対応になっていることには間違いありません。

近年，ヤングクラブバレーボール連盟などからＪＯＣカップ大会に選出することも出てきたため，何度も論議しました。現在は，それを考慮した結果，多くの方は気づいていないと思いますが，優秀選手のカテゴリーを「中学校の部」から「中学生の部」に変更しました。

以前は，優秀選手のなかから最優秀選手を１名選んでいました。優秀選手を選出するとき１番ポイントの高いチームから選出しました。
私は，「Ａさんより，Ｂさんの方が上手い」「優勝したチームのＣさんより，準優勝したＤさんの方が上手い」「試合中の態度を見ていると，人物的によいとは思わない者が最優秀選手としてもよいのか」などと思うことがありました。
そんなことを思っていたところへ岩野匡美会長が，「最優秀選手を選出する時代ではなくなった」ということで，１９９７年度より「最優秀選手」は廃止しました。その意見に私も大賛成しました。

その６　～Ｖ戦士（バレーボール通信）～

いつも思っていたことがあります。それは，県バレー協会と中学校各学校の顧問との距離があることです。顧問の先生方は常にバレーボールに詳しい方がなるとは限りません。そのため，分からないことなどは大会の会場で説明するような状況でした。何か，コミュニケーションをとる場はないだろうかと思っていました。
以前は，大会ごとに大会要項と申込用紙を封筒に詰めていました。特に，県中選手権大会のときは，県バレー協会への登録用紙とその書き方を同封していました。そこで思いついたのは，その封筒の中に中学校バレーボールに関する情報や先輩となる先生方の部活動の活動について掲載するプリント（バレーボール便り）を入れるということです。

発行するためには当然，徳島県バレーボール協会常務理事会において承認を得なければなりません。バレーボール便りを発行・発送する必要性があるのか。」ということを言われましたが，最終的には了解されました。
次に，タイトル名を「バレーボール便り」ではあっさりしているので何かいいタイトル名はないだろうか。そんなことを思っているとき，１０月，「ふれアリーナみよし」【三好町（現在，東み

よし町）】で行われているＪＯＣジュニアオリンピック四国合宿・池田杯（高知県バレーボール協会池田先生よりカップを提供して頂いたための名称）に参加したとき，三好中学校の保護者が模造紙に大きく「ようこそ，Ｖ戦士」と書いてありました。
きっと「Ｖ」はＶＯＬＬＥＹＢＡＬＬ，ＶＩＣＴＯＲＹの頭文字から来ているいいネーミングだと感じ，そのネーミングを勝手ながらいただくことにしました。

第１号は１９９５年春季号として発行しました。県協会の役員の方々からのメッセージ，先輩となる先生方の回想録，ルール改正について，競技上知っているようで知っていないこと（例えばユニフォームの規定），そして半年間の試合結果（徳島新聞に掲載している記事を残して，切り貼りをしていました）

しかし馬鹿な私は，第１号の発行から失敗をしました。１つ目，「徳島県中学校体育連盟バレーボール競技　発行」にしたこと，２つ目は「第１号のＶ戦士において理事長の話にしたこと」でした。県バレー協会常務理事会で会長から「そのプリント・印刷代についてはどこからきているのか。（県バレー協会からです）」「なぜ，第１号に（会長の話を）載せていないのか。（常に，大会要項の確認を理事長のところまで行って見てもらっていたため，理事長に頼みやすかった）」と。

今のＶ戦士は，当初思っていたことより違った内容になっているように思います。しかし，その理由として，試合結果は，ホームページに掲載されるようになったこと，個人情報的なところもありなかなか回想録を書いて頂く方が少なくなったこと，４月に各学校から全員来て頂く会議ができるため，ルールや競技の改正を文書で説明しなくてもよくなったことが考えられます。

皆さま方には，少しでも役に立つ，興味深い内容を掲載しようと考えています。また掲載して欲しいことや大会・練習において皆さんが疑問に思い，それを載せることがよいと思われることがありましたら連絡してください。